

社会福祉法人大空会 健康コラム No.25

今回のテーマ：「個性を知る」について

『職場の教養』の「個性を知る」という一文に、次のような言葉があります。

「どんな人にも、欠点や苦手なものはあるものです。

それを個性として捉え、前向きに取り組むことが大切です。」

この言葉は、福祉の現場においてもとても大切な視点です。

福祉の仕事は「人と人との関わり」が中心。

利用者さんにも生活歴や価値観があり、職員同士もそれぞれに得意・不得意があります。

ときにはその違いから誤解やすれ違いが生まれることもありますが、それは「悪いこと」ではなく、お互いを知るきっかけになります。

♣ 違いを認め合うことで広がる可能性 ♣

- 几帳面に確認するタイプの人
- 柔軟に新しい提案をするタイプの人

どちらも現場に必要な力です。お互いの違いを補い合うことで、より良い支援が生まれます。

また、自分にはない視点を仲間から学ぶことで、仕事の幅も広がります。

♣ 苦手と向き合うことで成長する ♣

- 苦手を克服する過程が、自信や成長につながる
- 「苦手を持っているのは自分だけではない」と気づける
- 仲間への理解や思いやりが深まる

♣ 心が穏やかであることは健康にもつながる ♣

完璧さを求める必要はありません。

大切なのは、違いを尊重し合い、協力しながら歩んでいく姿勢です。

このような温かい関わりが職場の安心感を生み、結果的に利用者さんへのより良い支援にもつながります。

そして、穏やかで前向きな心は体の健康にも良い影響を与えることが知られています。

人との違いを受け入れることは、自分自身の「心身の健康」を守ることにもなるのです。

日々の関わりの中で意識してみてくださいね。

個性を知る

本日は国民的キャラクター「ドラえもん」の声を二十六年間務めた、声優の大山のぶ代さんの一周忌です。「どこでもドア」や「タケコプター」といった道具を四次元ポケットから取り出す姿を見て、夢を膨らませた人もいるでしょう。

その独特な声で、中学生の時は友達に笑われたりしました。そのため、大山さんは声を発することをためらい、次第に消極的になっていきました。

そんな娘の様子を見て、大山さんの母親は「明日から声を出すクラブに入りなさい」と背中を押したのです。その後、放送研究部に入部し、連続放送劇を行なったことが評判となり、大山さんも自信を得ていきました。

どんな人でも、欠点や苦手としているものはあるはずです。それらが原因で本来の力が発揮できないとすれば、もったいないことです。

大山さんは、自分の声を「個性」として捉え、声優という職に就くことができました。欠点や苦手なものに背を向けずに、正面から立ち向かい、挑んでいくことも時には必要ではないでしょうか。